

近畿と関東の 昼間人口比率と第3次就業者割合 についての分析

滋賀大学データサイエンス学部2回生 林紗花 山崎大輔

目次

1. 分析の動機・仮説

2. 分析データ

3. 分析

4. 地域の比較

5. 結論

6. まとめ

7. 参考資料

1. 分析の動機・仮説

< 分析の動機 >

- ・ 地域, 昼夜によってどれくらいの人口の増減があるのかを知りたかったから。
- ・ 第3次就業者割合がどの地域で増加しているのかを知りたかったから。

< 仮説 >

- ① 都市部で昼間人口が多く、近郊都市で昼間人口が少ない。
- ② 都市部ほど第3次就業者割合が増加する。

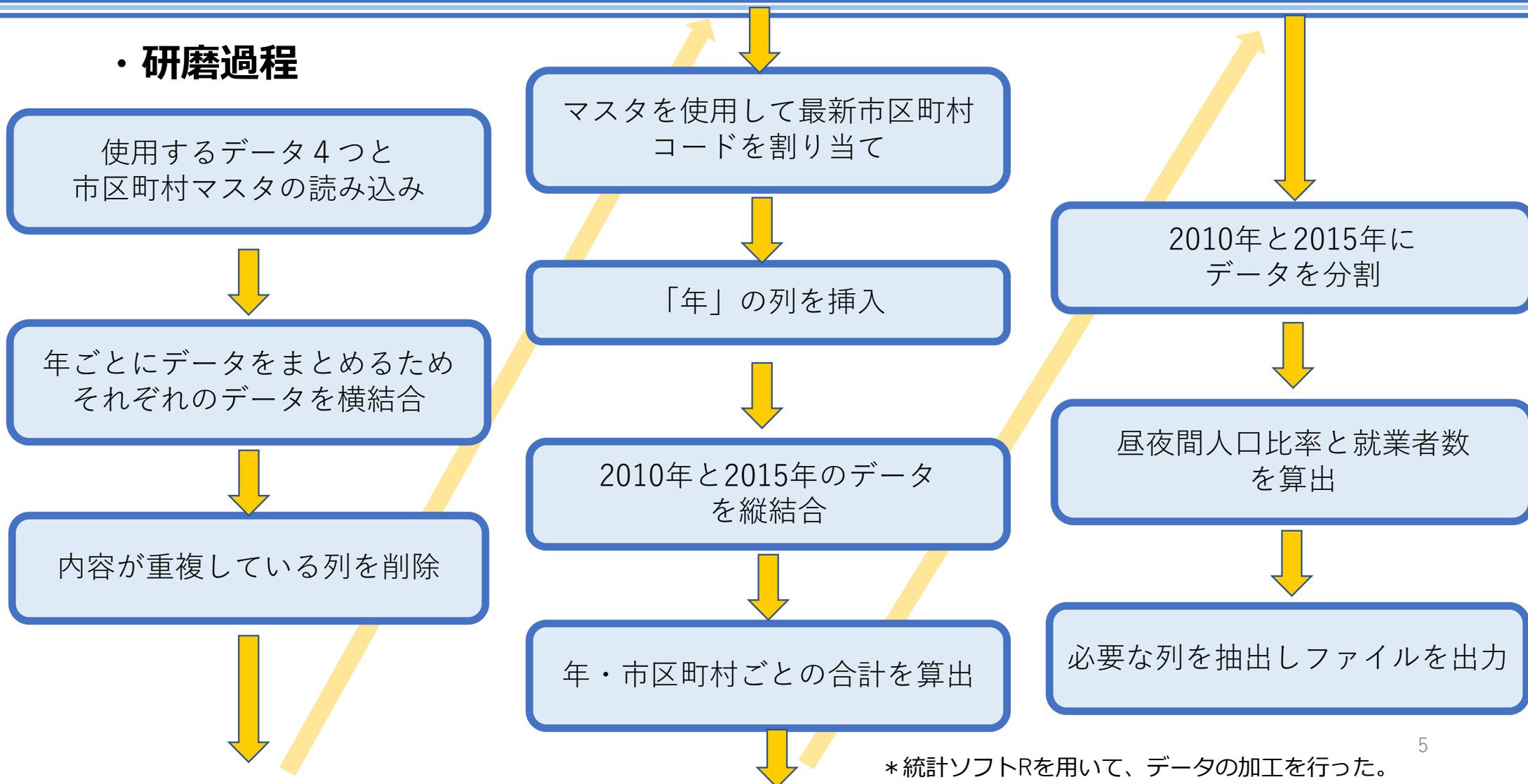
2. 分析データ

< 分析データ >

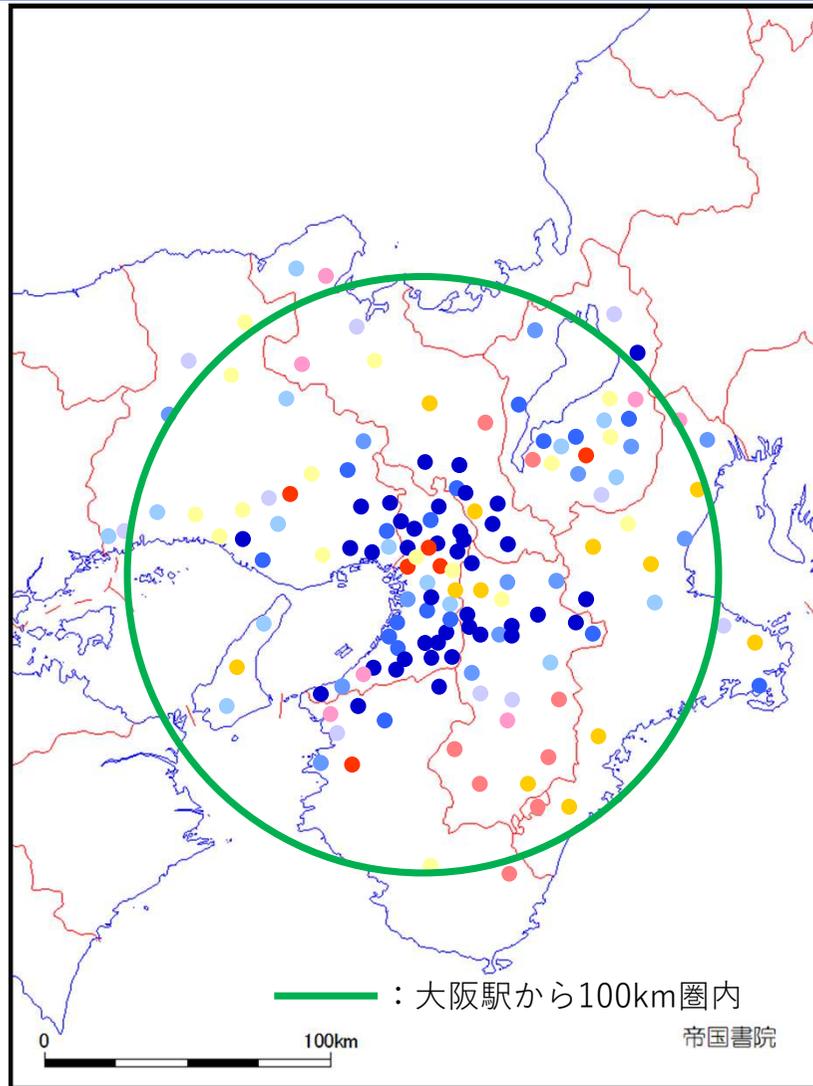
- ・平成22年国勢調査（総務省統計局）
都道府県・市区町村別主要統計表
人口移動集計及び従業地・通学地集計に係る遡及集計
- ・平成27年国勢調査（総務省統計局）
都道府県・市区町村別主要統計表
従業地・通学地集計 従業地・通学地による人口・就業状態等集計

2. 分析データ

・ 研磨過程



3. 分析 – 2010近畿 昼夜間人口比率



特徴

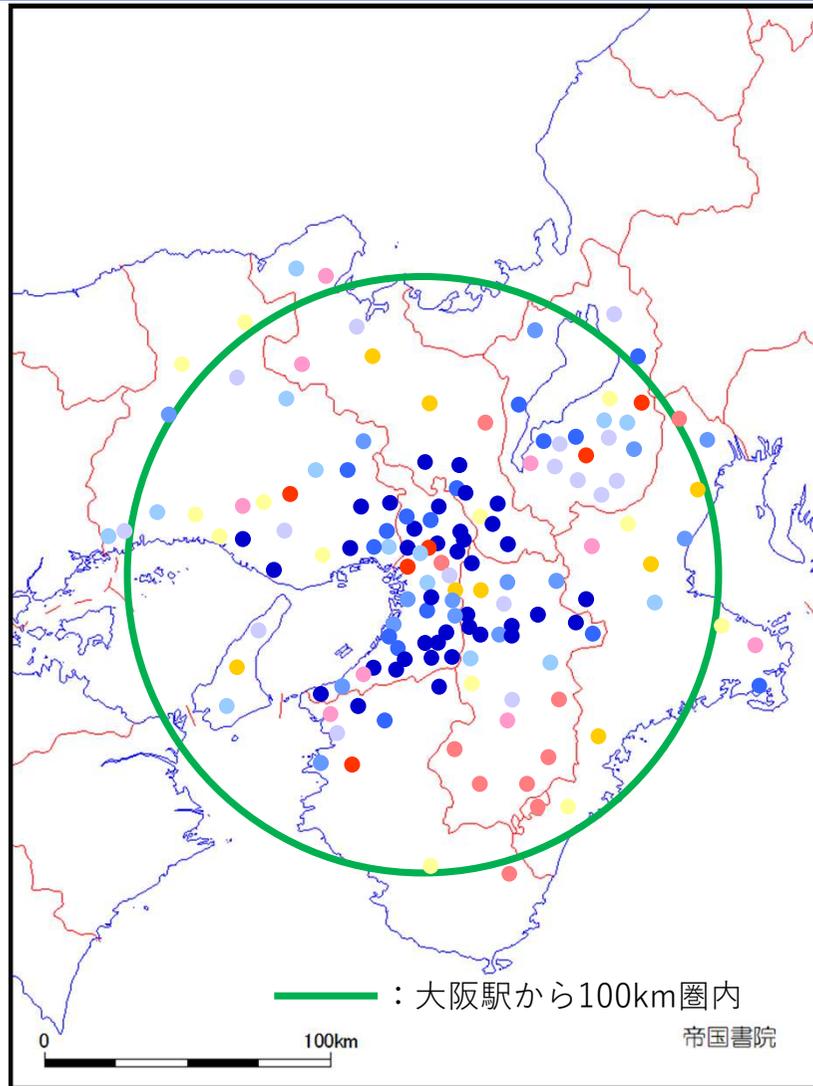
大阪府の中でも大阪市、門真市、摂津市は105%以上だが、その他の市町村はほとんどが95%以下。

奈良県については大阪まで電車で2時間かかる地域を境目に100%を超える地域が多くなる。

JRの線路沿いに位置する市町村は100%未満の地域が多くなる。

110.0%以上	: ●	97.5%~100 %:	●
107.5%~110.0%:	●	95.0%~97.5%:	●
105.0%~107.5%:	●	92.5%~95.0%:	●
102.5%~105.0%:	●	90.0%~92.5%:	●
100.0%~102.5%:	●	90.0%未満	: ●

3. 分析 – 2015近畿 昼夜間人口比率



特徴

大阪から約50km圏内に100%未満の地域が多く分布している。

大阪から約50km圏外の地域では100%を上回る地域が多い。

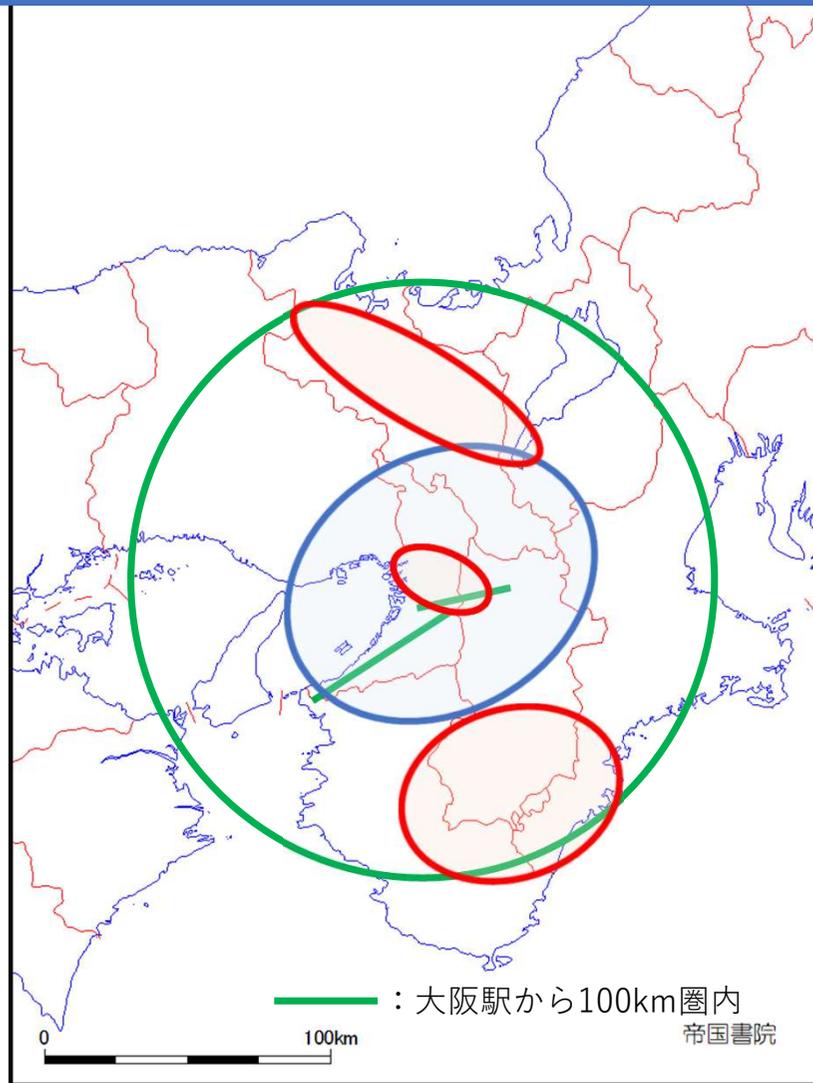
大阪府 : 大阪市・守口市・門真市

滋賀県 : 全体的に100%未満

奈良県 : 南部

110.0%以上	: ●	97.5%~100 %:	●
107.5%~110.0%:	●	95.0%~97.5%:	●
105.0%~107.5%:	●	92.5%~95.0%:	●
102.5%~105.0%:	●	90.0%~92.5%:	●
100.0%~102.5%:	●	90.0%未満	: ●

3. 分析 – 近畿昼夜間人口比率

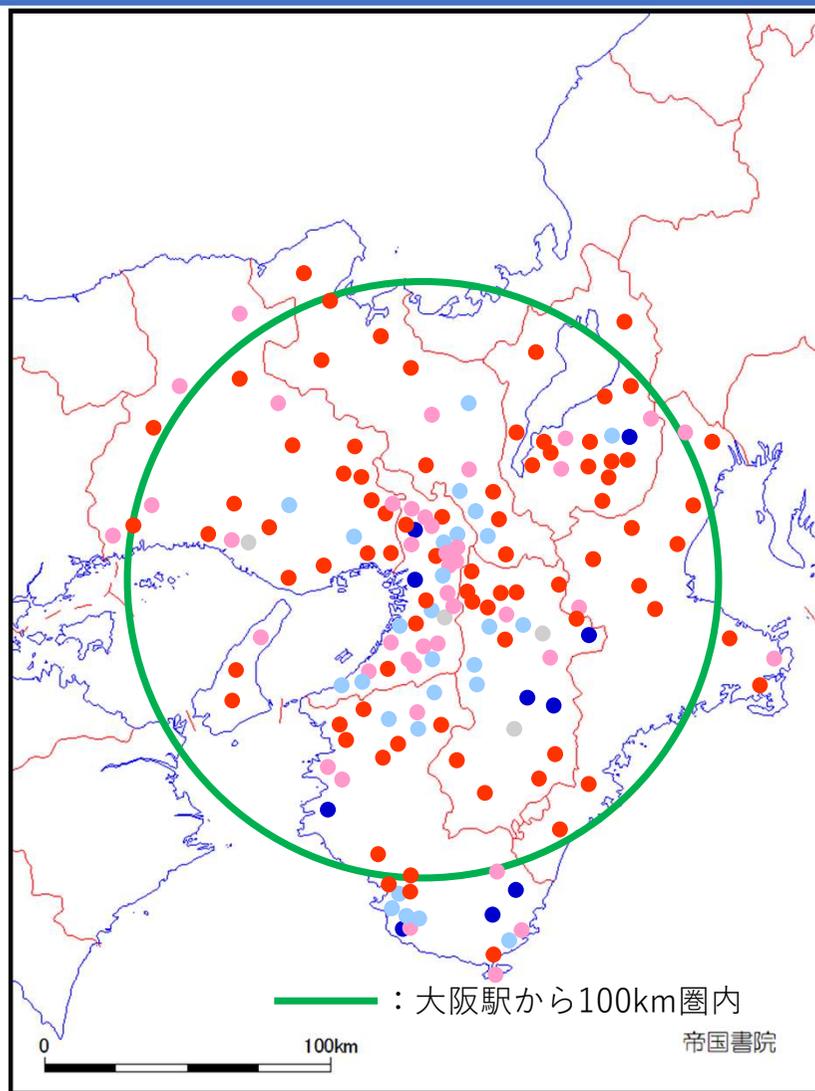


特徴

大阪府中心部で100%を超えていた市町村が2010年から2015年にかけて減少している地域が多い。

JR阪和線とJR大和路線沿いの市町村は2010年も2015年も変わらず90%未満である。

3. 分析 – 近畿 第3次産業就業者割合



特徴

- ・ 第3次就業者割合の増減が0%未満の地域は、昼夜間人口比率が100%を下回る地域が多い。
- ・ 大阪市から30~40km圏内の地域と和歌山県南部で減少している地域が多い。
- ・ 市ではなく村や町、またはその周辺で0%を下回る市町村が多い。

(第3次産業就業者数/就業者数)*100(%)

2015年(%) - 2010年(%) の値

+1.0%以上 : ●

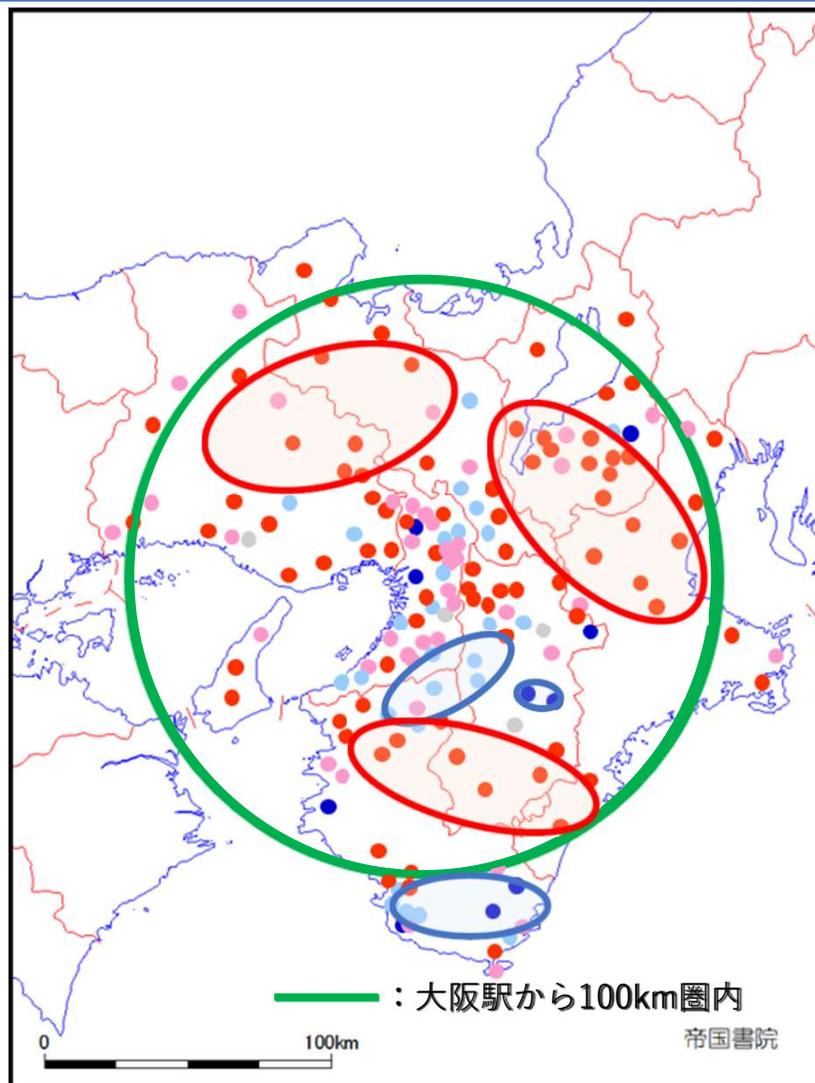
+0.0% ~ 1.0% : ●

±0 % : ●

-1.0% ~ -0.0% : ●

-1.0%以下 : ●

3. 分析 – 近畿 第3次産業就業者割合



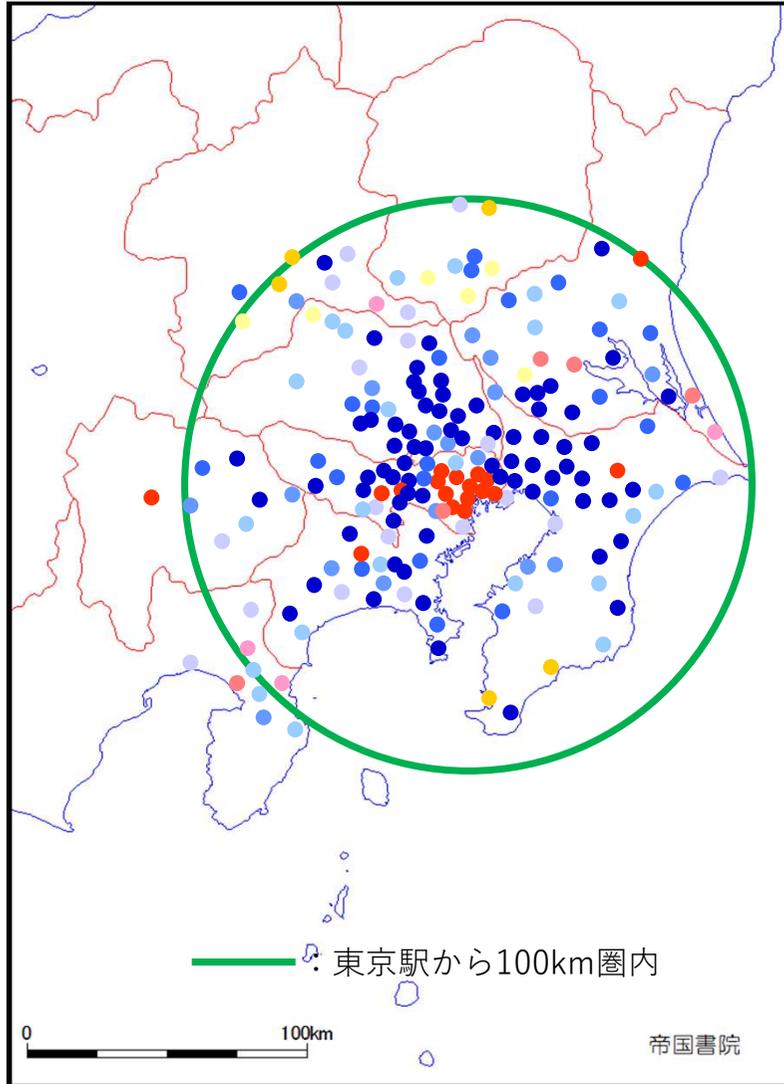
特徴

- ・ 第3次就業者割合の増減が0%未満の地域は、昼夜間人口比率が100%を下回る地域が多い。
- ・ 大阪市から30~40km圏内の地域と和歌山県南部で減少している地域が多い。
- ・ 市ではなく村や町、またはその周辺で0%を下回る市町村が多い。

(第3次産業就業者数/就業者数)*100(%)
2015年(%) - 2010年(%) の値

+1.0%以上	: ●
+0.0% ~ 1.0%	: ●
±0 %	: ●
-1.0% ~ -0.0%	: ●
-1.0%以下	: ●

3. 分析 - 2010 関東 昼夜間人口比率



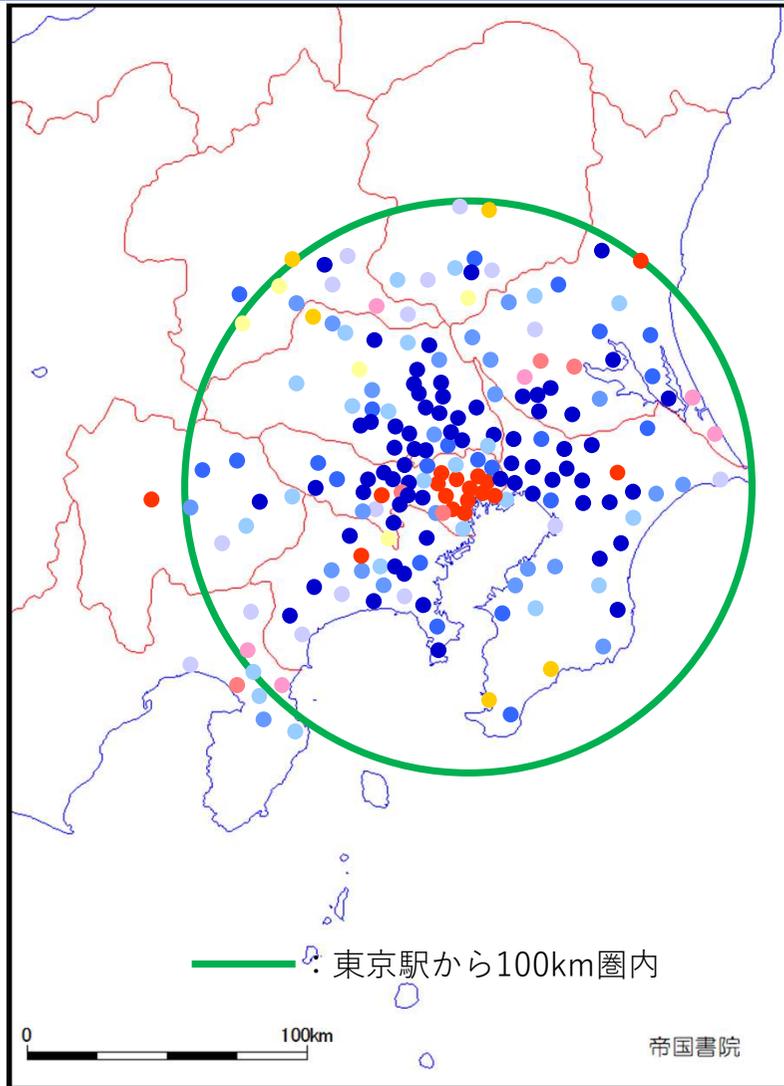
特徴

東京23区では、ほぼ110%を超えている。
葛飾区・足立区・荒川区は95%以下→
千葉県・埼玉県・神奈川県と同様の傾向

JRの線路を辿ると、90%未満の地域が
密集している。

110.0%以上	: ●	97.5%~100 %:	●
107.5%~110.0%:	●	95.0%~97.5%:	●
105.0%~107.5%:	●	92.5%~95.0%:	●
102.5%~105.0%:	●	90.0%~92.5%:	●
100.0%~102.5%:	●	90.0%未満	: ●

3. 分析 - 2015 関東 昼夜間人口比率



特徴

東京から約100km付近に100%以上の地域が多く分布している。

千葉：勝浦・南房総

茨城：鹿嶋・鉾田・水戸

栃木：宇都宮

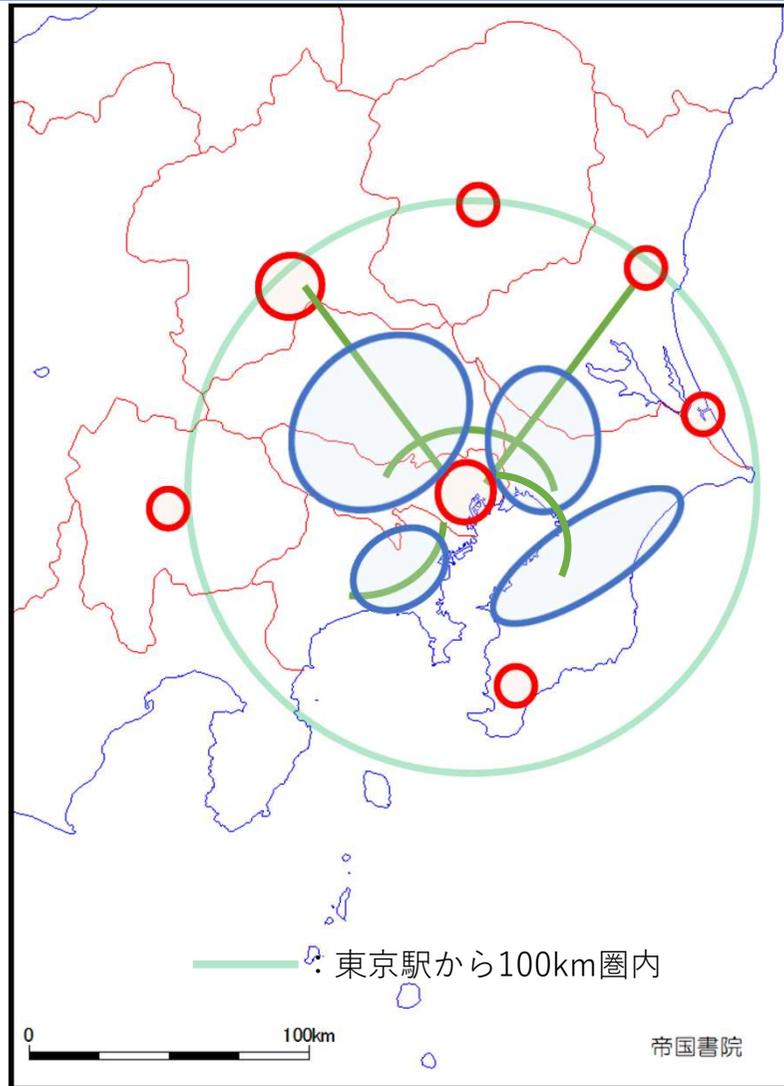
群馬：前橋

山梨：甲府

静岡：熱海・裾野・沼津

110.0%以上	: ●	97.5%~100 %:	●
107.5%~110.0%:	●	95.0%~97.5%:	●
105.0%~107.5%:	●	92.5%~95.0%:	●
102.5%~105.0%:	●	90.0%~92.5%:	●
100.0%~102.5%:	●	90.0%未満	: ●

3. 分析 - 関東 昼夜間人口比率



特徴

東京-千葉-茨城を結ぶJR常磐線沿線
東京-埼玉-群馬を結ぶJR高崎線沿線
千葉-埼玉-東京を結ぶJR武蔵野線沿線
東京-千葉を結ぶJR京葉線沿線
東京-神奈川を結ぶJR横須賀線沿線

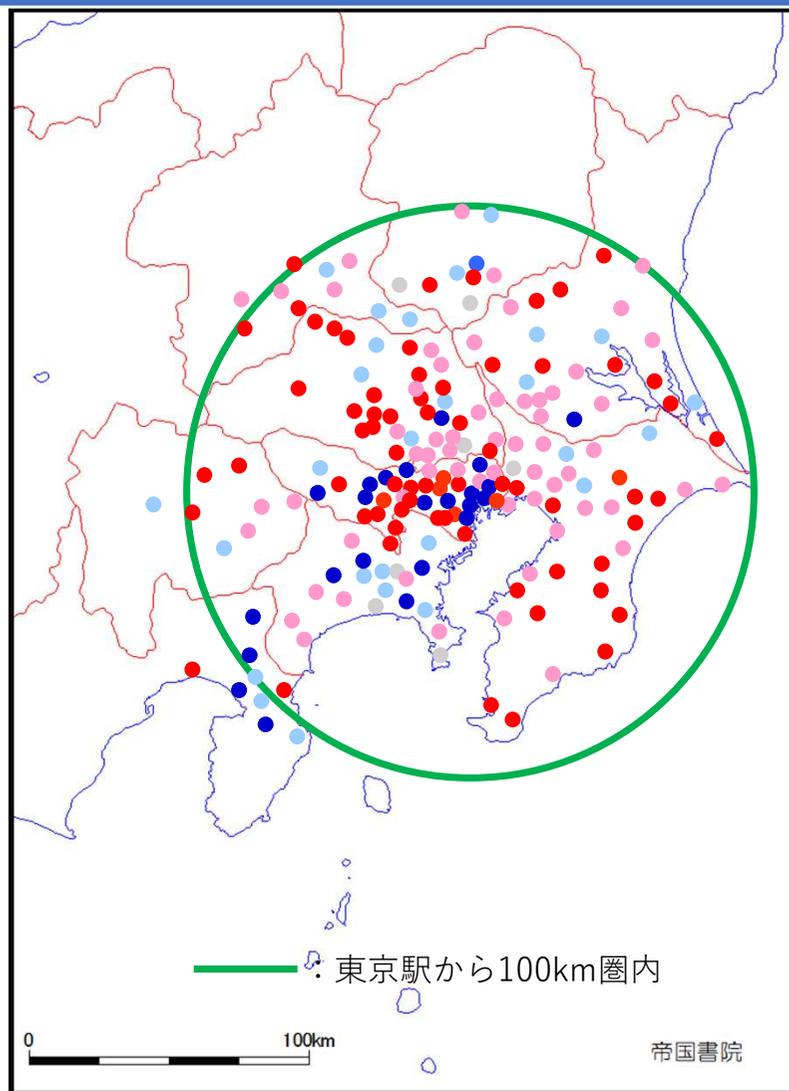


// 京急本線

の昼夜間人口比率が90%を切っている
地域が多い。

東京から80km程離れると、通勤通学のため
に他県の比較的大きな都市に移動
していると推測できる。

3. 分析 - 関東 第3次産業就業者割合



特徴

東京23区の中心部（千代田区・中央区・港区・品川区・新宿区など）と静岡（4地域）で1%以上減少。

鉄道が通るラインを辿ると概ね増加傾向。

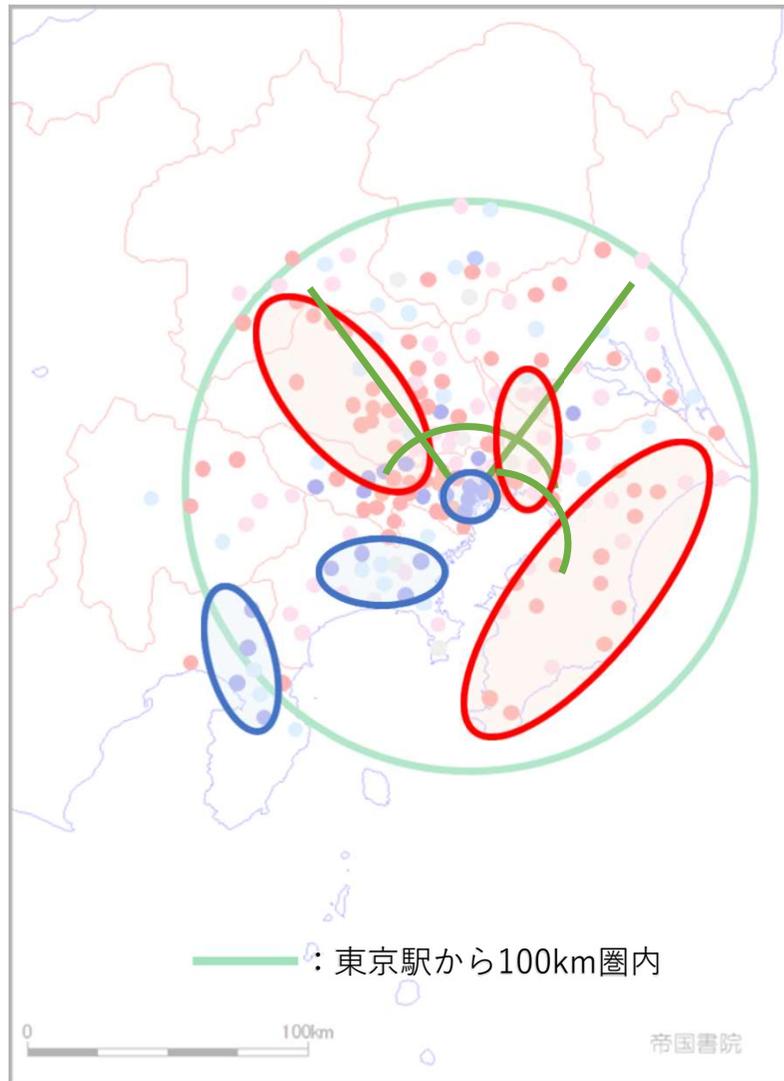
東京特別区で人口が約32万人増加したが、第3次就業者数の割合が減少している。

(第3次産業就業者数/就業者数)*100(%)

2015年(%) - 2010年(%) の値

- +1.0%以上 : ●
- +0.0% ~ 1.0% : ●
- ±0 % : ●
- 1.0% ~ -0.0% : ●
- 1.0%以下 : ●

3. 分析 - 関東 第3次産業就業者割合



特徴

東京23区の中心部（千代田区・中央区・港区・品川区・新宿区など）と静岡（4地域）で1%以上減少。

鉄道が通るラインを辿ると概ね増加傾向。

東京特別区で人口が約32万人増加したが、第3次就業者数の割合が減少している。

(第3次産業就業者数/就業者数)*100(%)

2015年(%) - 2010年(%) の値

+1.0%以上 : ●

+0.0% ~ 1.0% : ●

±0 % : ●

-1.0% ~ -0.0% : ●

-1.0%以下 : ●

4. 地域の比較

滋賀県との比較

滋賀県

【昼夜間人口比率】

97.5%~102.5%の地域が点在している
昼間と夜間で人口変化が少ない地域

【第3次産業就業者割合】

多くの地域で1%以上増えているが、
一部地域で減少がみられる地域

彦根市との比較

彦根市

【昼夜間人口比率】

昼間と夜間で人口変化が少ない地域

【第3次産業就業者割合】

彦根市との割合の差が
±0.1%以下の地域

4. 地域の比較

滋賀県との比較

滋賀県と同じ特徴のある地域
【昼夜間人口比率】

兵庫県南部
埼玉県北部

【第3次産業就業者割合】

奈良県北部
埼玉県東部

彦根市との比較

彦根市と同じ特徴のある地域
【昼夜間人口比率】

兵庫県南部（姫路市 )
栃木県南部（真岡市・栃木市・小山市）
埼玉県北部（本庄市）

【第3次産業就業者割合】

彦根市：+1.67%増加

・±0.1%の市

滋賀県甲賀市・東近江市

三重県四日市市

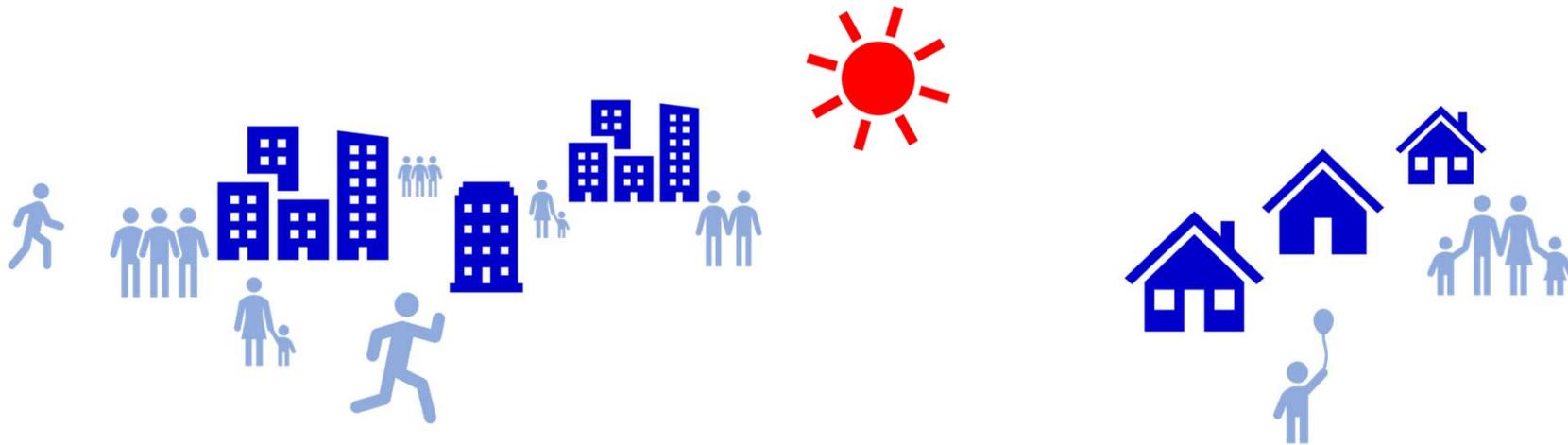
兵庫県神戸市・宝塚市・猪名川市

5. 結論

仮説の検証

- ①都市部で昼間人口が多く、近郊都市で昼間人口が少ない
→都市部（大阪市・東京23区のうち皇居周辺の区）で110%を大きく超えていた。近郊都市で90%を下回る地域がほとんどであった。

- × ②都市部ほど第3次就業者割合が増加する
→都市部（大阪市・東京23区のうち皇居周辺の区）では減少していた。



6. まとめ

まとめ

- ・近郊都市だけでなく中心部から約10km離れた地域でも、昼間人口比率が減少する。
- ・線路を辿っていくと、その周辺で昼間人口比率が低い。
- ・都市部では第3次就業者割合が減少しているが、その他の地域では中心部からの距離に関係なく増加している。

分析を深めるポイント

都市部では第3次就業者割合が減少しているが、第3次就業者数は増加している地域と減少している地域がある。第1,2次就業者数の増減は地域によって異なっていた。増減の要因は何かを探求すると、新たな発見💡があると考える。

7. 参考資料

参考資料

- ・ e-Stat 政府統計の総合窓口

<https://www.e-stat.go.jp/>

(2020年12月2日確認)

- ・ 帝国書院 日本の白地図

https://www.teikokushoin.co.jp/teacher/outline_map/japan/index.html

(2020年12月2日確認)

- ・ Google マップ

<https://www.google.com/maps>

(2020年12月2日~16日確認)

fin